

## 今月の御教え

氏子、十里の坂を九里半登っても、安心してはならぬぞ。十里を登り切って向こうへおりたら、それで安心じゃ。気を緩めると、すぐに後へもどるぞ。

……金光教祖御理解 第八十一節……

## 解説

「十里の坂を九里半登っても」ということですが、何事も九割五分も出来たら安するのは普通であります。教祖様は「それで安心してはならない」と仰られる。「十里を登り切ってこそ安心じゃ」と仰る。真に慎重極まりないと思えるのですが、そういえば植木職人の名人と言われる人も、弟子が木の上の高所にいるときは黙ってみているが、ずっと下に降りて来た時に「気をつけよ！」と声をかけるといふ。曰く『高所にいるときは、気を付けているが、下へ降りて来て「もう安心だ！」と気が緩むときが一番怪我をしやすい』との事。

教祖様は篤信者の「貴方ほどの御神徳を積みめば、もう何も心配することは、ございませんでしよう」との問いに対して「此の方といえども、間違えば、いつお暇がでるかかわからぬ」と答えておられます。このような、日々油断のない慎み深い信心姿勢であってこそ大神蔭を頂くことが出来ることをお示し下さった御理解であります。